

* 略歴

- ・ 2010 年 東京大学医学部医学科卒業
- ・ 2012 年 藤枝市立総合病院 初期臨床研修終了
- ・ 東京大学医学部附属病院、茅ヶ崎市立病院で後期研修（小児科）
- ・ 2015 年 小児科専門医取得
- ・ 2016 年 東京大学医学部附属病院 小児科 特任助教
- ・ 2017 年～現在 国立成育医療研究センターで研究員として研究に従事
- ・ 2018 年 公衆衛生学修士（MPH）取得
- ・ 2020 年 4 月 コロナ×こども本部立ち上げ

* 所属学会

- ・ 日本小児科学会
- ・ 日本公衆衛生学会
- ・ 日本小児血液・がん学会
- ・ 日本血液学会
- ・ 日本造血細胞移植学会

*抄録原稿

新型コロナ流行下において、こどもたちは、感染症自体による医学的な問題よりも心理社会的問題に多く直面してきました。おとなと比べて声をあげることが難しいこどもたちは、どのような状況に置かれていた／いるのでしょうか。おとなは、こどもたちのために何ができるのでしょうか。

国立成育医療研究センターのコロナ×こども本部は、2020年春から夏にかけて、全国のこどもと保護者を対象に2回の大規模インターネット調査【コロナ×こどもアンケート】を実施し、のべ1万5千人の方々にご協力いただきました。秋以降も継続的に調査を実施していく予定です。

これまでの調査結果で、緊急事態宣言中はもちろん、学校再開後においても、学校や家庭でこどもたちが多くのストレスを抱えていた／いることが明らかになりました。また、逃避行動や集中力低下、睡眠障害、自傷他害行為など、ストレス反応が予想していた以上に多く見られています。こどもたちから預かったおとなへの伝言（自由記載）は、どれも心に響くものでした。本講座で紹介できるのはほんの一部ですが、ぜひ当センターHPで報告書をご覧ください。

調査の結果を踏まえて、こどもの周りにおとなの皆さんに、お願いがあります。ぜひ、家庭で、学校で、こどもたちと関わるそれぞれの場で、こどもの気持ちを聴いてあげてください。おとなはつい、こどものイライラや暴力といった

行動的側面に目が向いて叱ったりしてしまいがちです。しかし、その行動の裏にある、言葉にできていない不安や不満などを話せるように助けてあげることが、こどものストレスケアになります。

過去の大規模災害後の調査で、こどもの心の傷・症状は時間が経ってから顕在化してくることが知られています。一種の災害とも言えるこのコロナ禍、中長期的な影響にも注意が必要です。こどもたちとの向き合い方を見直すきっかけにしていただけましたら幸いです。